

# 令和3年度 施設関係者評価

評価者氏名：胸組 やす子

1. 保育理念、保育観	
内容	評価
園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している	A
園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている	B
定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている	A
全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている	A
<p>モンテッソーリ教育の理念に基づいた保育を柱として、0歳児から5歳児までの子ども達それぞれを、保育のプロの目で客観的に「観察」し、発達に見合った自立が達成できるように保育を行うということが、統一した意識として職員間で共有されている。手を出しすぎず、子どもの力を信じて、基本的には見守り、必要な部分だけを援助していくこと。担任間や乳児・幼児それぞれの保育士間でのミーティングも密に行われていて、計画もしっかりと立てられ保育が進められていると感じた。</p>	
2. 保育計画、保育実践と振り返り	
内容	評価
全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている	A
子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している	A
配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている	A
保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている	A
<p>乳児期0歳児からモンテッソーリ教育を実践できるよう、モンテッソーリ教育の専門家が定期的に来園指導し、保育を振り返っている。モンテッソーリ教育では個々の発達に合った「おしごと」を子どもたち自身が選んで行えるので、支援が必要と思われる子供も、保育士の個別の声掛けで、上手に活動が出来ている。年長児の子どもたちが落ち着いて、自分のおしごとに向き合っている様子に、乳児期からの経験の積み重ねの大切さを感じた。子ども達に魅力的なおしごとを提供できるよう、環境づくりには特に時間をかけて行っていた。</p>	
3. 環境、安全	
内容	評価
一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している	A
園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている	A
職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている	A
職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	A
<p>子どもサイズの家具が環境に配置されていて、子どもたちが安全・安心して生活している様子だった。モンテッソーリ教育の理念に基づき、縦割りの異年齢保育を実践しつつ、年齢別の横割り保育もできるよう、工夫されている。玄関に置かれた検温システムや、登降園システムはIT化され、各保育室にも防犯カメラが取り付けられていて、事務室にあるモニターから常時安全確認が出来る。また、防災備蓄品も複数個所に保管され、園外に出かけるときはトランシーバーで都度、連絡報告がされていた。</p>	

4. 食育	
内容	評価
職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている	B
栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている	C
食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている	A
離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	A
<p>コロナ禍においての食育はなかなか実践できないようで、例年の様には進められなかった様子。クッキングなども保育士が衛生管理を徹底して、無理せず、できる範囲で縮小して行われた。縦割りや給食を食べることも出来なくなり、パーテーションで机を仕切り、黙食を心がけていた。アレルギー除去食は器やトレーを別の色にして分類し、間違いの事故が起こらないように配慮されていた。</p>	
5. 職員構成、役割分担、研修	
内容	評価
職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている	A
園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している	A
各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている	A
<p>園務分掌で職員間の役割や仕事が年度当初に決められ、各々、責任をもって、任務を遂行していた。行事の準備についてもチームワークよく行われていて、係りではなくても積極的に手伝いを申し出て、段取り良く進められていた。モンテッソーリ教育を実践していく上での園内研修も毎月行われていて、園外研修もコロナ禍で多くはオンラインで行われたが、保育を外れて参加できるよう、互いに協力し合っていた。</p>	
6. 保護者支援、子育て支援	
内容	評価
保護者に対し、園の保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている	A
保護者の状況など、個人情報への漏えいに気をつけている	A
保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている	A
地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている	B
<p>毎月、園だより、クラスだよりを発行して園全体の保育内容や、クラスでの様子、取り組みを伝えている。個人情報の取り扱いについては折に触れて、取り扱いに注意喚起している。働く保護者を支えられるよう、送迎時の挨拶やコミュニケーションを大切にし、家庭とこども園間で連携して子育てが行われるように気を配っている。未就園児については子育てサロンや一時預かり事業を実施し、家庭で子育てをされている地域の方達へ交流の場を提供していた。</p>	
7. 小学校や地域社会との連携	
内容	評価
定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている	C
町内会や地域の方との交流を積極的に行っている	C
ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている	B
<p>コロナ禍であるゆえ、地域交流は難しい状態が続いている。子どもたちの多くが進学していく地元の小学校とは、見学や参観を通して、子どもたちの発達が系統的に継続していけるように、やり方を工夫しながら連携をとっていけるようになると良いと思う。実習生の受け入れは感染症対策に十分注意しながら行っていたようだ。</p>	